

# コミュニティ交通のレシピ

～長尾台地区「あじさい号」を事例に～



川崎市多摩区長尾台地区は、高台に位置し、最寄りの駅やバス停から離れた地域です。

住民の高齢化等を背景に移動手段の確保を目指し、住民同士が調査、協議を進め、平成26年12月から「あじさい号」の本格運行を開始しました。

本格運行開始後も協議会を中心に住民への周知・浸透を図るべく、様々なイベント機会を活用して「あじさい号」の認知度を高め、運行開始から10年経過した令和5年度には黒字となりました。

ここでは、コミュニティ交通の導入・運営に向けたポイントや協議会内の役割分担の事例を紹介し、各地域での取組の参考としていただければ幸いです。



令和7年3月



## 「あじさい号」とは？

- \* 多摩区の高台にある住宅地「長尾台地区」は、最寄りの駅やバス停からも離れた地域です。
- \* 高齢化等が進む中で地域が主体となりコミュニティ交通導入計画を策定し、運行が実現しました。
- \* 現在、平日及び土曜日に、地域と周辺の登戸駅、久地駅を結ぶルートで運行し、通勤・通学から買物、通院など幅広い目的で利用されています。

### <運行概要(令和7年3月時点)>

○運行日：平日及び土曜日(日曜日、休日、年末年始運休)

○運行時間：平日午前6時半～午後10時半、  
土曜午前10時～午後6時

○運行本数：平日52便、土曜22便

○大人運賃：240～260円

○運行経路：

#### <会館回り>

久地駅～長尾会館前～あじさい寺

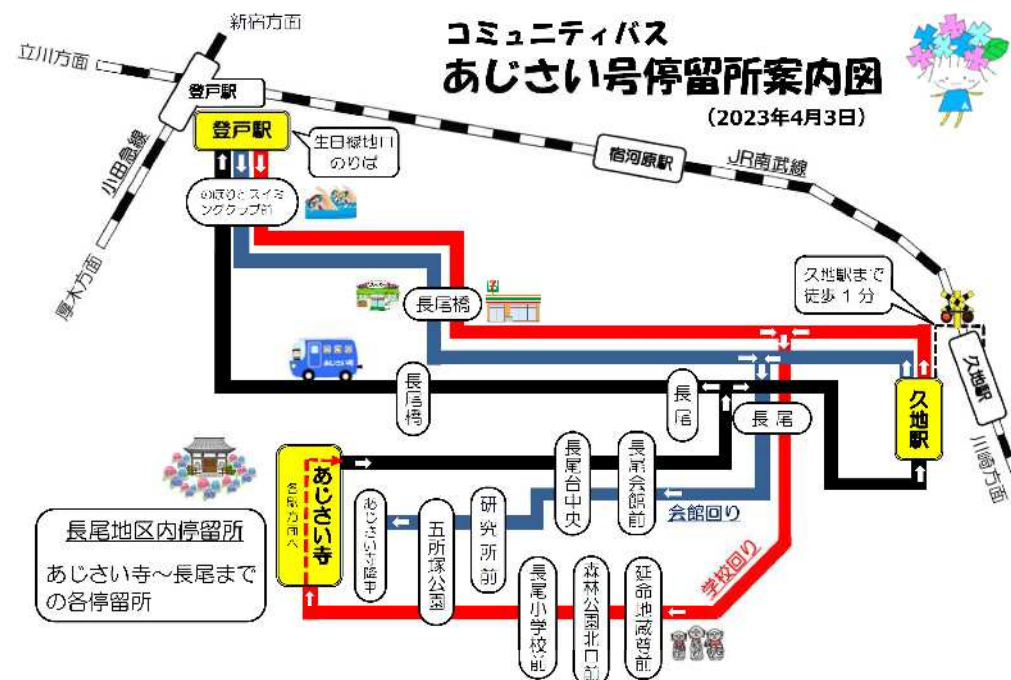
登戸駅～長尾会館前～あじさい寺

#### <学校回り>

久地駅⇒長尾小学校⇒あじさい寺⇒久地駅・登戸駅

登戸駅⇒長尾小学校⇒あじさい寺⇒久地駅

○運行事業者：株式会社高橋商事



「あじさい号」運行ルート図





# 「あじさい号」のあゆみ

- \*平成20年9月に協議会を設立し、その後、ニーズ調査の実施や試験運行、運行実験を通じて、課題への対応を協議し、平成26年12月に本格運行を開始しました。
- \*平成31年、地域から要望のあった小学校回りに運行経路を延伸し、新たな利用者を獲得しました。
- \*コロナ禍での一時的な利用減少はあったものの、運行開始から10年が経過した令和5年度には、黒字となりました。

平成20年 ... 平成22年 平成23年 ... 平成25年 平成26年 ... 平成31年 令和2年 ... 令和6年

「長尾台コミュニティ交通導入推進協議会」設立

走行環境テスト実施

運行実験

運行実験

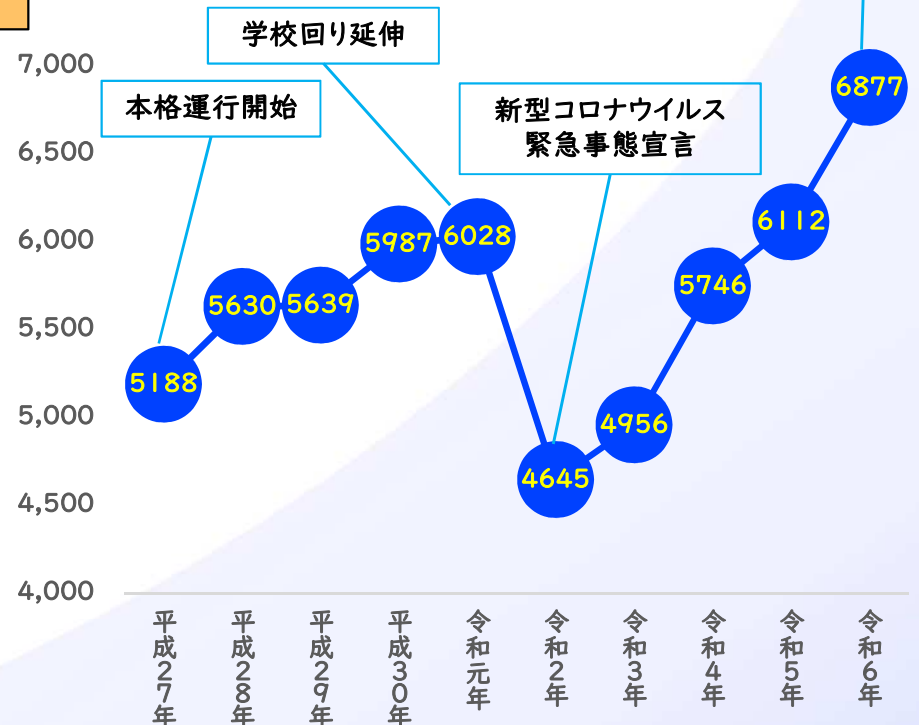
本格運行開始

学校回り延伸ルート運行開始

新型コロナウイルス緊急事態宣言

本格運行10周年達成

## 月間平均利用者数推移



本格運行10周年達成



運行実験(平成23年)



運行実験(平成25年)

2.7人/便

1.8倍

4.8人/便

★車両大型化や曜日・時間帯の見直し、ニーズの高い登戸駅への充実等により利用者が増加

出典: 運行事業者株式会社高橋商事様  
乗車人数集計表



## 「あじさい号」を支える人々～「あじさい号協議会」～

- \* 地域住民自ら問題解決に向けて、平成20年4月に地元の有志により準備会を設立し、同年9月に自治会正副会長などを含めた「長尾台コミュニティ交通導入推進協議会」を設立しました。
- \* 本格運行に伴い、名称を「長尾台コミュニティバス利用者協議会」に改め、女性メンバーも参画し、新たな視点も加わったことで地域の方々との関わりを重視した活動が活性化しました。
- \* 令和5年より「あじさい号協議会」と改称して活動を継続しています。

○平成20年4月～  
長尾台住宅にコミュニティバスを導入する準備会  
・住民有志8名

○平成20年9月～  
長尾台コミュニティ交通導入推進協議会  
・自治会正副会長等を追加した11名

地元自治会を  
巻き込んだ  
組織体制へ

試験運行、運行実験を経て、本格運行へ移行

○平成27年4月～令和4年  
長尾台コミュニティバス利用者協議会  
・委員12名

延伸検討の  
ための組織  
を設立

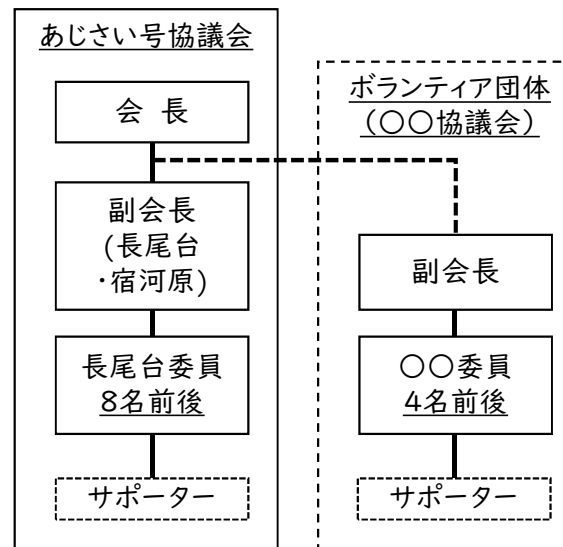
○平成28年～31年  
五地区コミュニティ交通導入推進協議会  
・延伸検討の組織

統合

### 協議会の組織表（関係者の組織構成）

令和5年～ 「あじさい号協議会」組織表

委員：14名前後





## 「あじさい号」を支える人々 ～「サポーター」～

- \*平成27年からメンバーとなった地域にコミュニティを持つ3名を中心に、あじさい号の**周知活動**や、**運行費用を賄うためのバザー・イベント開催**、**募金活動**等を推進しました。
- \*「**伝える・つながる・楽しむ**」をモットーに各種活動に取組み、あじさい号が**住みよいまちづくり**に貢献していることを様々な場を通じて**PR**していきました。
- \*その他にも、利用促進を目的として、Google mapに時刻表を登録、SNSで運行状況の発信、「夏休みこども50円キャンペーン」の実施等、様々な活動や取組を行いました。



あじさい号の乗車案内



ガレッジセールや金魚すくい等の開催



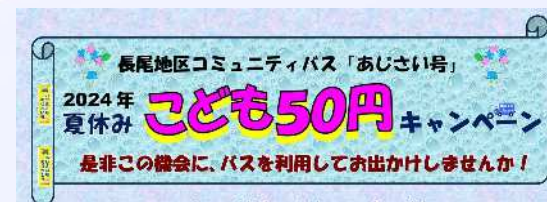
イベント時の臨時切符販売



あじさい祭り時に開催した「あじさいフェスタ」



令和元年多摩区「まちカツ」でのPR活動



夏休みこども50円キャンペーンの実施





# あじさい号協議会、地元自治会のみなさまにお聞きました

## ～コミュニティ交通導入に向けた**10**個の**ポイント**～

### ①自治会の理解が重要です

コミュニティバスを街に走らせたいという強い想いが、まず住民自治会に必要です。これがスタートとなります。

自治会長のリーダーシップにより、まずはコミュニティバス協議会を設立しましょう。

### ②協議会のリーダー・会長の選定と、サポーターの支援がポイントです

リーダーシップや情熱のある方をコミュニティバス協議会会長に選定し、まずは協議会の委員を選定しましょう。また、あじさい号協議会では、協議会の委員だけでなく、サポーターとしてご活躍をいただいている方の存在が有効なポイントとなっています。

### ③「住民が主体」であることが重要です

会議の開催、議題設定、進行、議事録作成等、協議会の活動は市の支援を受けながら、住民が主体的に取り組むことが重要で、住民の地域課題の解決への意識が醸成されます。

住民主体の取組を継続することで、「自分たちのバス」と愛着も高まり、コミュニティバスが「地域のコミュニティの場」として進化していくことができるようになります。

### ④進捗を丁寧に住民に説明することが必要です

長尾台地区でも当初から半年ごとの説明会の開催や、定期的なニュース発行、回覧等を実施しました。検討の進捗を丁寧にかつ定期的に説明することで、理解の醸成につなげられ、様々な活動への協力も得やすくなります。

### ⑤出来ることから確実に進めることが重要です

様々なニーズがある中であれもこれもやり遂げたいと思いがちですが、その全てを達成しようと理想を追求しすぎると運行することさえ難しくなります。様々な課題を踏まえながら、出来ることから確実に検討を進め、運行しながら見直し、対応していくことが重要です。

## ⑥バス運行会社の選定が重要です

地域の交通事業者と相談の上、依頼することでスムーズに進められると思います。  
なお、運営の会社の体制（特に運転手、バス車両の確保）の検討、見直しには時間を要します。  
随時、市の支援も受けつつ、場合によっては車両の調達・確保に対し、協賛・募金等を行う必要もあります。

## ⑦どのくらい住民がバスを必要としているか？ 利用者予測を明確にすることが必要

当然ながら、第一歩として利用者予測が明確になっていることが必要です。  
どのような方々がバスを利用するのか？大枠を捉えておく必要があります。  
（①買い物、②通学、通勤、通院、③そのバス運行途中にある会社、学校等の従業員が利用 等々）  
参考までに、あじさい号の長尾には住民1,400名で、年間のバス利用者は8万人程度です。

## ⑧利用者アンケートによるCS調査（満足度調査）の実施が有効

コミュニティバス稼働後も定期的な利用者CS調査が必要となります。  
どのような要望があるか？等々を一つ一つクリアにして対応策を検討する必要があります。  
これは、コミュニティバス運用継続に非常に重要な要素となります。  
あじさい号では、「早朝・夜間の増便」、「夏休みこども50円キャンペーン」等々の施策をしています。

## ⑨バス車両広告の募集も必要

バス利用者の運賃だけでは、黒字化は困難です。車両への広告等を検討する必要があります。  
あじさい号でも、地域の2団体からの広告支援を受けて運行しています。

## ⑩コミュニティバスを運行するための必要な手続き（市に相談しながら進める）

バスを運行するためには、安全性の確保や、他の事業への影響等の観点から、道路管理者、交通管理者（警察・公安委員会）、他の運行する路線バスの事業者等、様々な機関と協議・調整を行うことが必要です。  
運行を目指すにあたっては、市に相談しながら進めることが有効です。



（取材協力）あじさい号協議会

（ 製作 ） 川崎市まちづくり局交通政策室



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市